

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保存活用課	村田 雅之
生涯学習課	安達 純

重点目標	6	歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ②京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3. 資料館施設等の整備充実	①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4. 文化芸術活動の推進	①「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ②市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧 **PLAN** **DO** ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 **CHECK** **ACT**

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。					

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
1	文化財保護啓発事業 市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。	文化財保護課			統合(整理)

2. 地域の文化財の総合的な保存と活用		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。					

2	指定文化財等管理事業 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。	文化財保護課	4,546	6,737	10,953	統合(整理)
3	遺跡整備事業 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。	文化財保護課	46,150	47,561	53,884	拡大
4	遺跡発掘調査等事業 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。	文化財保護課	6,606	5,253	4,458	現状維持
5	地域文化財総合活用推進事業 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。	文化財保護課	6,565	4,860	5,422	現状維持
6	地域文化財総合活用推進事業【繰越】 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。	文化財保護課	-	692	-	

3. 資料館施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。					

7	郷土資料館管理運営事業 民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。	文化財保護課	29,484	2,756	2,161	現状維持
8	古代の里資料館管理運営事業 考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。	文化財保護課	11,412	13,246	13,932	現状維持
9	資料館等指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。	文化財保護課	8,977	8,770	10,195	現状維持

4. 文化芸術活動の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。						
	10 文化芸術事業	生涯学習課	35,645	33,906	37,020	現状維持
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業						
		決算額(単位:千円)			事務の改善	
↓		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
	11 文化財保護審議会委員設置事業	文化財保護課	171	185	213	現状維持
文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。						
	12 文化財保護一般経費	文化財保護課	216	345	2,948	現状維持
文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。						
	計		149,772	124,311	141,186	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	560	R4	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	10,465	R4	18,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R4	8	R6
	京丹後史博士の認定者数	人	-		66	R4	120	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	117	R4	200	R6
文化芸術事業の開催回数	回	-	R1	49	R4	100	R6	
京都府丹後文化会館利用者数	人	-	R1	21,774	R4	42,000	R6	

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる		<p>《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 新型コロナウイルス感染症の関係で、京丹後史博士育成講座は休止し、京丹後市文化財セミナーは2回開催した(65名)。このほか、外部からの出前講座等の対応を行った(18回、495名)。 今後は、対策を講じながら、セミナーや講座を通常通り開催し、目標値に近づけるようにしたい。</p> <p>《資料館、文化館入館者数》 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言による臨時休館は行わなかったが、学校関係の利用が減少したこともあり、前年度実績と比べ入館者は横ばい。コロナ前の水準には達していない。 今後は、各館ともに対策を講じながら事業実施を行い、集客増につなげていきたい。</p> <p>《史跡整備》 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和4年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、前方部の墳丘復元、周濠整備、階段整備を行った。令和5年度以降も引き続き、環境整備事業を進め、令和6年度には完成予定である。</p> <p>《京丹後史博士の認定者数》 令和4年度は講座の開催を見合わせたため、認定者数に変化がなかった。5年度は開催を予定している。</p> <p>《文化協会加盟サークル数》 新型コロナウイルス感染拡大及び高齢化のため多くの団体が脱退した。各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。</p> <p>《文化芸術事業の開催回数》 本物の舞台芸術体験事業を小中学校で行い、団体支援として文化協会が行う各町域での文化祭や総合作品展、サークル体験会、ケーブルテレビ等を活用した団体PRのほか、丹後文化事業団が行う事業支援等を実施し、市民が文化芸術に触れる機会や場所の提供ができた。</p> <p>《京都府丹後文化会館利用者数》 新型コロナウイルス感染症による事業自粛緩和の動きにより、概ね事業が予定通り実施できるようになった。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。</p>
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている	▲	

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	令和4年度で策定した京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、市内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費						99.2%		課		文化財保存活用課
	目	07 文化財保護費	6,737千円	6,788千円	51千円	(参考)当初予算額						
	事業	02 指定文化財等管理事業				6,621千円						
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進											
目的	文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈りや補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。		主な財源		国補		国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金					
主要な事務・事業の概要	○京丹後市指定文化財等補助金		12件	2,390千円	○コウノトリモニタリング事業		427千円					
	(内訳)・国、府指定登録文化財補助金該当		5件	1,569千円	国指定特別天然記念物・コウノトリが市内3か所で営業したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録を行うとともに、巢周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。(期間:令和4年4月4日~6月24日)							
	・京都府社寺等文化資料保全補助金該当		7件	821千円	○指定文化財看板等修繕		584千円					
	(京丹後市指定文化財等のうち補助要件を満たすもの)				・説明板・施設等の修繕、工事費(10か所)		581千円					
神社・寺院建物の修理、覆屋・収蔵庫の修理、民俗芸能の道具の修理・新調、史跡の修理などを支援。				赤坂今井墳墓・藤社神社・穴文殊・二ゴレ古墳・京極家墓所・深田部神社の説明板修繕、生野内断層小屋・網野収蔵庫・難湖古墳小屋の修繕、ふるさと大宮を歩く看板撤去		3千円						
※参考 令和3年度実績		補助件数	21件	・看板土地借上料(3か所)		86千円						
		補助金額	2,389千円	○指定文化財関連施設管理経費		60千円						
○湯舟坂2号墳出土品抜本強化修理事業			2,075千円	○指定文化財関連施設管理経費		26千円						
国指定重要文化財の湯舟坂2号墳出土品のうち破損等が認められる鉄製品等を保存処理し計265点分の安定台を製作する。4か年計画の1年目。				・丹後震災記念館等の指定文化財施設の維持管理経費等								
○史跡活用及び文化財保存活用計画に関する先進地視察経費			138千円	・火災保険料(旧口大野村役場庁舎、郷村断層ほか3件)								
史跡整備、博物館等活用事例を視察(群馬県前橋市、高崎市、安中市)				○市内に数多く残る文化財の保全のために修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。								
○史跡等草刈・環境美化委託(16か所)			1,037千円	○コウノトリの営業に伴い必要な保護活動を行い、コウノトリの個体保護に寄与することができた。								
神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、郷村断層、				○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。								
旧口大野村役場庁舎、湯舟坂2号墳、竹野神社環境保全地区、				○文化財案内看板等の計画的な整備につとめ、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。								
高山12号墳、遠慮遺跡、黒部銚子山古墳、震災記念館用地、												
大谷古墳、浜詰遺跡、細川ガラシャ夫人隠棲地、岡1号墳												

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費						99.5%		課		文化財保存活用課
	目	07 文化財保護費	47,561千円	47,771千円	210千円	(参考)当初予算額						
	事業	03 遺跡整備事業				49,293千円						
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進											
目的	丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。		主な財源		国補		国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2)					
主要な事務・事業の概要	国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度に策定した整備基本計画に基づき、史跡の保存を図りつつ整備工事を行った。整備工事は、条例に基づき設置した京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施した。(令和6年度完成予定)				市債		遺跡整備事業債(過疎対策債)					
	○網野銚子山古墳整備事業費		47,561千円									25,600千円
	・報酬 史跡整備検討委員会委員報酬		72千円									
	(2回開催、委員15人)											
・旅費 史跡整備検討委員会委員参集旅費等		138千円										
・需用費 消耗品費		42千円										
・委託料 実施設計委託料		3,333千円										
工事監理委託料		1,375千円										
維持管理草刈委託料		714千円										
・工事請負費 環境整備工事費		41,887千円										
【公園工事】												成果・課題
墳丘部の整理伐採50本、墳丘前部の墳丘復元盛土工300㎡、												
周溝表示工(新設)1250㎡・表面舗装1270㎡等。												
【道路改良工事】												
市道銚子山線の一部アスファルト舗装55.2m												

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局				
	項	04 社会教育費						5,253千円	5,268千円	15千円	(参考)当初予算額	99.7%
	目	07 文化財保護費										5,150千円
	事業	04 遺跡発掘調査等事業										課
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2) 2,350千円 府補 埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金(1/4) 1,175千円									
目的	発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。											
主要な事務・事業の概要	<p>丹後町徳光に所在する奥山遺跡・長田遺跡・石原遺跡・川向遺跡の発掘調査及び大宮町奥大野に所在する裏陰遺跡の発掘調査を実施し、報告書を刊行した。また、網野銚子山古墳(網野町網野)発掘調査の報告書刊行に向け、整理作業を行った。</p> <p>○会計年度任用職員任用経費 3,228千円 (発掘調査補助員・整理員・作業員9人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬 2,838千円 ・期末手当 100千円 ・共済費(労災保険料、雇用保険料) 135千円 ・費用弁償 155千円 <p>○発掘調査等経費 2,025千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅費(協議旅費、費用弁償) 301千円 ・需用費(消耗品、発電機燃料代、印刷製本費等) 681千円 ・役務費(し尿汲取手数料) 2千円 ・委託料(網野銚子山古墳に関する遺物実測図作成委託料) 498千円 ・使用賃借料(重機・機械器具・仮設トイレ借上料・施設使用料等) 543千円 		<p><調査概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥山・長田・石原・川向遺跡(現地調査 令和4年9月27日～11月10日) 府営ほ場整備計画に先立ち、遺跡の広がりを確認するため15か所で調査を行った。ほぼ全てのトレンチで過去の造成土が確認され、明確な遺構の存在、遺物の出土はなかった。 ・裏陰(うらかげ)遺跡(現地調査 令和4年11月30日～12月13日) 農地形状変更の計画に先立ち、範囲確認調査を実施した。江戸時代以降のものとは推定される杭列の他は顕著な遺構・遺物は見られなかった。 ・網野銚子山古墳(整理作業のみ) 平成28年度～令和2年度に実施した発掘調査による出土遺物の整理や、遺物実測図の作成を行った。(令和5年度報告書発刊予定) 									
	成果・課題			<p>○奥山遺跡ほかの調査では、過去の造成が大規模に行われていることが確認できた一方、遺構の広がりは限定的である可能性が高いものとなった。</p> <p>○裏陰遺跡の調査では、江戸時代以降のものと思われる杭列以外は確認できず、遺構の広がりの状況を推測する手がかりを得た。</p> <p>○網野銚子山古墳では、遺物の整理や遺物実測図作成などの作業を進め、報告書発刊の準備を進めることができた。</p>								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局				
	項	04 社会教育費						4,860千円	4,996千円	136千円	(参考)当初予算額	97.2%
	目	07 文化財保護費										5,633千円
	事業	05 地域文化財総合活用推進事業										課
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補 文化芸術振興費補助金 3,169千円									
目的	市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。											
主要な事務・事業の概要	<p>文化財関係者及び、商工・観光関係者等が参画した策定協議会及び保存分科会を開催し、文化財保存活用地域計画を策定した。</p> <p>○文化財保存活用地域計画策定協議会開催経費(委員15人) 147千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員謝金 半日×2回(4,000円×延べ25人) 100千円 ・委員費用弁償 47千円 <p>○地域計画策定協議会保存分科会開催経費(委員3人) 24千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会委員謝金 半日×1回(4,000円×3人) 12千円 ・分科会旅費 12千円 <p>○計画作成等に係る協議費用 46千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁係官現地指導費用弁償 21千円 ・文化庁協議旅費 25千円 <p>○計画策定委託料 3,487千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画策定支援委託料 		<p>○計画認定を受けての情報発信 1,156千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画認定記念シンポジウム謝金 194千円 令和5年3月18日 峰山総合福祉センター 参加者数:40人 ・印刷製本費(冊子・概要版・シンポジウムチラシ) 962千円 20,500枚 									
	成果・課題			<p>○協議会及び分科会を開催し、委員の意見を聞きながら、計画作成を進め、令和4年12月16日に文化庁の認定を受けた。</p> <p>○今後、本計画を実行・推進していくにあたり、その進捗管理を行う推進協議会の設立や、文化財の保存活用を担う人材の育成、安定的な財源の確保等が重要な課題である。</p>								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	04 社会教育費							692千円	692千円	0千円	100.0%	
	目	07 文化財保護費											(参考)繰越予算額
	事業	05 地域文化財総合活用推進事業(繰越)											
課	文化財保存活用課												
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源										
目的	市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。												
主要な事務・事業の概要	文化財関係者及び、商工・観光関係者等が参画した策定協議会及び保存分科会を開催し、文化財保存活用地域計画の作成を進めた。		692千円										
	○計画策定委託料 ・文化財保存活用地域計画策定支援委託料				成果・課題	協議会及び分科会を開き、委員の意見を聞きながら、計画作成を進めた。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																				
	項	04 社会教育費							2,756千円	2,872千円	116千円	95.9%																
	目	05 資料館費											(参考)当初予算額															
	事業	01 郷土資料館管理運営事業												2,696千円														
課	文化財保存活用課																											
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源	使用料	郷土資料館入館料	31千円																						
目的	民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。																											
主要な事務・事業の概要	豊富に残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・書籍等の適切な保管・公開を行った。		764千円		【企画展示・イベント】																							
	○会計年度任用職員任用経費(資料館業務員1人) ・報酬、費用弁償、労災保険料				<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>タイトル</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4.7.23~9.10</td> <td>夏季企画展「くらしと戦争」</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>R4.7.21~8.28</td> <td>夏休み企画(小学生・同伴者入館無料)</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>R4.10.29~12.10</td> <td>秋季企画展「むかしの装い」</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>R4.11.3</td> <td>郷土資料館まつり</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>R5.1.7~2.7</td> <td>冬季企画展「新収蔵品展」</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>R5.3.4~5.16</td> <td>春季企画展「こどもの節句展」</td> <td>95人</td> </tr> </tbody> </table>				期 間	タイトル	入館者数	R4.7.23~9.10	夏季企画展「くらしと戦争」	42人	R4.7.21~8.28	夏休み企画(小学生・同伴者入館無料)	27人	R4.10.29~12.10	秋季企画展「むかしの装い」	46人	R4.11.3	郷土資料館まつり	46人	R5.1.7~2.7	冬季企画展「新収蔵品展」	49人	R5.3.4~5.16	春季企画展「こどもの節句展」
期 間	タイトル	入館者数																										
R4.7.23~9.10	夏季企画展「くらしと戦争」	42人																										
R4.7.21~8.28	夏休み企画(小学生・同伴者入館無料)	27人																										
R4.10.29~12.10	秋季企画展「むかしの装い」	46人																										
R4.11.3	郷土資料館まつり	46人																										
R5.1.7~2.7	冬季企画展「新収蔵品展」	49人																										
R5.3.4~5.16	春季企画展「こどもの節句展」	95人																										
○維持管理費		1,992千円		【入館者数・推移】																								
・維持管理経費(燃料、光熱水費、通信費等)		1,048千円		<table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>822人</td> <td>75人</td> <td>215人</td> <td>321人</td> </tr> </tbody> </table>				R元	R2	R3	R4	822人	75人	215人	321人													
R元	R2	R3	R4																									
822人	75人	215人	321人																									
・漏水修繕(調査委託料、修繕料)		288千円		成果・課題 ○民俗資料・典籍等の公開、4回の企画展の開催、夏休み期間中の小学生を対象とした入館料無料イベント、郷土資料館まつりを実施するなど、文化財の普及啓発を図った。 ○市内小学校の社会科見学の受け入れを行い、実物に触れながら学び、学習効果を高めることができた。 ○常設展示の配置や展示資料の解説内容などを改善していくことが課題である。																								
・施設保守管理経費(貯水槽、浄化槽、消防設備)		162千円																										
・施設警備委託料		85千円																										
・使用賃借料(コピー機借上料、テレビ受信料)		161千円																										
・その他事務経費(消耗品)		248千円																										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局												
	項	04 社会教育費	13,246千円	13,668千円	422千円	96.9%														
	目	05 資料館費				(参考)当初予算額														
	事業	02 古代の里資料館管理運営事業				13,780千円														
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	課				文化財保存活用課														
目的	主な財源	使用料	古代の里資料館入館料		539千円															
		諸収入	古代の里資料館陶芸教室実習料		91千円															
主要な事務・事業の概要	目的	考古資料・美術工芸品の収集・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。	諸収入	古代の里資料館物品販売代金		24千円														
		<p>考古資料・美術工芸品を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図った。</p> <p>○会計年度任用職員任用経費（資料館業務員4人） ・報酬、期末手当、共済費、費用弁償 8,581千円</p> <p>○維持管理、展示等に関する経費 4,665千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理経費（燃料、光熱水費、修繕、通信費等） 2,286千円 ・施設保守管理経費（電気設備、浄化槽、消防、伐採） 719千円 ・施設警備委託料 78千円 ・使用料及び賃借料（コピー機、清掃用具、土地借上げ等） 460千円 ・その他事務経費（消耗品、ごみ処理手数料等） 334千円 ・展示イベント関係経費（チラシ印刷、図録増刷等） 726千円 ・備品購入費（二酸化炭素消火器1台） 62千円 	諸収入	古代の里資料館書籍販売代金		187千円														
			<p>【企画展示】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>タイトル</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4.4.29~R4.9.11</td> <td>企画展示1「海の代官所と太刀宮文書」</td> <td>1,186人</td> </tr> <tr> <td>R4.9.23~R5.2.26</td> <td>企画展示2「葦山藩と京極家」</td> <td>925人</td> </tr> <tr> <td>R5.3.4~R5.4.23</td> <td>企画展示3「災害の歴史と記憶を伝える」</td> <td>298人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【入館者数・推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,821人</td> <td>1,380人</td> <td>1,579人</td> <td>2,454人</td> </tr> </tbody> </table> <p>成果・課題</p> <p>○考古・歴史資料の公開により、文化財の普及啓発を図った。 ○小中学校の地域学習施設として活用することで、市内小中学生に対して市内の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより一層、小中学校の地域学習への活用を図っていく必要がある。 ○平成6年の開館から25年以上が経過しており、館内設備の計画的な更新等が今後の検討課題である。</p>	期 間	タイトル	入館者数	R4.4.29~R4.9.11	企画展示1「海の代官所と太刀宮文書」	1,186人	R4.9.23~R5.2.26	企画展示2「葦山藩と京極家」	925人	R5.3.4~R5.4.23	企画展示3「災害の歴史と記憶を伝える」	298人	R元	R2	R3	R4	2,821人
期 間	タイトル	入館者数																		
R4.4.29~R4.9.11	企画展示1「海の代官所と太刀宮文書」	1,186人																		
R4.9.23~R5.2.26	企画展示2「葦山藩と京極家」	925人																		
R5.3.4~R5.4.23	企画展示3「災害の歴史と記憶を伝える」	298人																		
R元	R2	R3	R4																	
2,821人	1,380人	1,579人	2,454人																	

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	8,770千円	8,770千円	0千円	100.0%			
	目	05 資料館費				(参考)当初予算額			
	事業	03 資料館等指定管理施設運営事業				8,586千円			
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	課				文化財保存活用課			
目的	主な財源	琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。							
		<p>鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引浜鳴き砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。</p> <p>○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料 7,483千円</p> <p>○使用料及び賃借料 1,287千円</p> <p>公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び土地所有者への駐車場用地賃借料</p>	<p>【入館者数・推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,520人</td> <td>6,055人</td> <td>6,443人</td> <td>7,692人</td> </tr> </tbody> </table> <p>成果・課題</p> <p>○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力、「丹後学」をはじめとする市内学校の見学対応などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。</p>	R元	R2	R3	R4	9,520人	6,055人
R元	R2	R3	R4						
9,520人	6,055人	6,443人	7,692人						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	04 社会教育費						33,906千円	34,018千円	112千円	99.6%	課	生涯学習課
	目	02 社会教育推進費											
	事業	05 文化芸術事業											
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		府補 繰入金	きょうと地域連携交付金（文化芸術事業） 韓哲・まちづくり夢基金繰入金	1,000千円 743千円								
目的	市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送り、地域の生活文化を育て、ゆとりと潤いのある地域づくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。また、文化芸術振興審議会を設置し、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。		主な財源										
主要な事務・事業の概要	文化芸術活動団体への支援を行い、市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供し、市民による文化芸術活動の充実を図った。												
	○京都府丹後文化事業団運営補助金	27,000千円						○おとまち響プロジェクト 743千円 閉校した学校などにあるピアノを修繕・調律し、市内2か所（丹後王国「食のみやこ」、京都府丹後文化会館）に「まちかどピアノ」を設置した。 音楽をはじめ日常的に文化活動を行っている市民の練習や発表の場を創設するとともに、誰もが様々な場面で音楽に触れる機会をつくるため、市内3か所（丹後王国「食のみやこ」、京丹後夢球場、京都府丹後文化会館）に屋外コンセントを設置した。					
	○京丹後市文化協会運営補助金	3,500千円						○文化芸術振興計画策定検討に関する経費 1,328千円 京丹後市文化芸術振興審議会委員報酬、アドバイザー謝金ほか 委員15人、アドバイザー5人、審議会開催回数：3回 視察1回、シンポジウム1回					
	○丹後文化芸術祭実行委員会補助金	1,300千円						成果・課題 ○優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の提供及び地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。 ○文化芸術に関する施策を総合的、計画的に推進するため、文化芸術振興審議会を設置し、京丹後市文化芸術振興計画を策定した。 ○（公財）京都府丹後文化事業団及び京丹後市文化協会等、各団体の自立運営に向けた支援をしていく必要がある。					
	○京丹後文化のまちづくり推進事業補助金	35千円											
	閉校になった学校の校歌保存事業（旧倉垣小、旧橋中。旧橋中は音源収録のみ）の実施を支援した。												

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	04 社会教育費						185千円	269千円	84千円	68.7%	課	文化財保存活用課
	目	07 文化財保護費											
	事業	01 文化財保護審議会委員設置事業											
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源										
目的	文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会での、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。												
主要な事務・事業の概要	○文化財保護審議会の開催経費		82千円					令和4年度市指定文化財（計5件：カッコ内は所在地） ・常徳寺石造地藏菩薩立像（丹後町平） ・銅造饅口（丹後町平） ・坪倉家文書（丹後古代の里資料館寄託） ・森田治郎兵衛墓（峰山町吉原） ・味土野大滝（弥栄町須川）					
	○両丹文化財保護連絡協議会開催経費		103千円										
	令和4年度は京丹後市で開催（令和4年11月30日） 場所：アグリセンター大宮 参加者：京都府北部の各市町の文化財に携わる委員及び担当職員 テーマ：「災害と文化財」 「災害の記憶を伝える」、「災害から文化財を守り伝える」という二つの視点から事例発表により情報交換を行った。また、佛光大学名誉教授の植村善博氏に記念講演をいただき知見を深めた。												
	・報酬	協議会出席：半日×9人（4千円×9人）	36千円					成果・課題 ○審議会において検討を深め、市指定文化財を5件指定することができたことにより文化財保護を図る一助となった。 ○両丹文化財保護連絡協議会を開催し、文化財を取り巻く課題について共有することにより連携を深める一助となった。					
	・講師謝金		61千円										
	・費用弁償		6千円										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	345千円	357千円	12千円	96.6%			
	目	07 文化財保護費				(参考)当初予算額			
	事業	50 文化財保護一般経費				357千円	課	文化財保存活用課	
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源						
目的	文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。								
主要な事務・事業の概要	○文化財収蔵施設維持管理費（5か所）		145千円	○会議出席経費		130千円			
	資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費 十楽収蔵庫（久美浜町十楽） 網野出土遺物収蔵庫（網野町網野） 旧成路分校（峰山町鱒留） 旧三重保育所（大宮町三重） 高嶋寮（丹後町上野） ・消耗品費 52千円 ・光熱水費 36千円 ・修繕料 24千円 ・火災保険料 33千円			全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費（担当職員1人） ・開催日：令和4年11月15日 東京都 ・内 容：陳情活動 全国鳴き砂サミット出席旅費（代表幹事として出席・1人） ・開催日：令和4年11月12日～13日 福島県いわき市					
	○文化財関係加盟団体経費		70千円						
	・全国史跡整備市町村協議会・近畿地区協議会		50千円						
	・全国鳴き砂ネットワーク		20千円						
				成果・課題	文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。				